

素材供給基地からの脱却

—市場ニーズに対応した高付加価値商品開発ノウハウの習得—

NPO法人創成塾

1 創成塾について

NPO法人創成塾は、東京農業大学の「オホーツクものづくり・ビジネス地域創成塾」（以下、創成塾）の修了生を中心として結成された団体で、ものづくりを通じて、地域の自然豊かな環境資源の保全と有効利用することに関心を持つ、一般市民や事業者に対し、講演会、研修会、討論会、調査研究、コーディネート、アドバイス、企業マッチング、産学官共働等の事業を推進し、地域のまちづくり、経済や雇用の振興と発展に寄与することを目的とし活動しています。

会員数は40名で、農業、漁業、製造業、販売業、飲食業等と会員職種は様々であり、設立当初は創成塾修了生のみであった会員も現在では修了生以外の会員も入会しております。



地域食材を使ったお弁当（農大オープンキャンパスの昼食提供）

2 地域の抱える問題と事業の開催目的

当法人が所在するオホーツク地域は、海産物・農産物といった一次産業による生産が非常に多く、地域を支える産業の中心となっています。良質な原材料の供給基地として重要な存在となっていますが、その反面、これら生産物を原材料とした製造分野は非常に弱く、

地域における課題の一つと考えています。

地元の原材料を素材とした商品開発においては、市場ニーズ（マーケットイン）を把握した商品作りの重要性は十分に認識しているはずですが、実際に商品開発を行う段階になると、市場ニーズの把握がおろそかとなり、開発者の意向が強く反映された商品（プロダクトアウト）となる傾向が多く見られます。「売れる商品」作りのノウハウの習得は必須であり、素材供給基地から脱却し付加価値の高い商品の開発がオホーツク地域にとって重要になると考えています。

オホーツク地域における商品開発の問題点を解消するために、集合型のセミナーとワークショップを開催し、商品開発スキルの向上を目的として、今回の事業を計画しました。

3 オンラインセミナーによる開催へ

当初は、ワークショップとセミナーを同時開催し、ワークショップ1では商品開発のノウハウについて講師より指導を受け商品プランの作成を行い、セミナーにて商品プランのプレゼン、その後、セミナーでの議論を受け、ワークショップ2で商品プランのブラッシュアップを行うことにより、ワークショップ1の段階での商品プランとワークショップ2でブラッシュアップを行ったプランの差違を認識することで、より実践的な商品開発ノウハウの習得を目指しました。

しかし、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、3月初旬に予定した集合型のワークショップ・セミナーの開催は困難となり、一旦延期の判断をしました。

その後、オンラインセミナーとして、日程の変更と2名の講師を選定した後、2回に分け開催することとなりました。

4 9月26日 第一回セミナー《講師 寺本英仁氏》

寺本氏は、島根県^{おきなん}邑南町商工観光課長で、「A級グルメ 食と農の取り組み」と題して講演をいただきました。

当初、地域にあるブランド牛の東京への売り込みを行ったところ、供給できる量の何倍もの量が必要という現実に直面し、売り込みを断念したという、苦い経験を発端として生まれたA級グルメの取り組みについて、説明していただきました。地域おこし協力隊として調理人を募集し、そのうちの何人かは独立して町内にレストランを出店するなど、A級グルメの取り組みによる成果が、着実に好影響を与えているという実例を説明していただきました。



寺本さんと牛

邑南町「A級グルメ」

5 10月22日 第二回セミナー《講師 田中彩華氏》

田中氏は、ROSE LABO (株) を設立し、食べられるバラを使った事業を展開しており、「若手農家の“食べられるバラ”を使った6次産業ビジネス」と題して講演をいただきました。大学を中退して取り組んだバラの栽培、農業経験ゼロの状態から、食用バラ農家での修業を行って技術を習得した経験を紹介していただき、ROSE LABOを設立するに至った経緯や、商品開発や加工における外注化や連携など、自社だけでは解決できない問題に対して、事業を進めていく上での重要なポイントについて説明していただきました。



イベント販売の様子

6次産業ビジネスモデル

6 今後の取り組みと活用

今回のセミナーを通じ、地域の魅力発信やものづくりのこだわりについて多くの見識を得ることができました。邑南町の事例を参考とし、地域にある資源を活用し発信するだけでなく、人を呼び込める活動の必要性を学びました。

コロナ禍の状況にあり経済活動は停滞してはいますが、今後地方滞在が重要視されている流れの中で移住定住に繋がる活動がより必要になると再認識いたしました。

また、良質で豊富な原材料があることから、製造分野が疎かになっている現状は、将来を考えると少しずつでも改善していく必要があると改めて考えさせられました。この地域だけではできない事も、デジタルトランスフォーメーションを活用し、より効率的でスピーディーな連携を作りあげることで、解決できることが沢山あると思いました。

今回はオンラインセミナーの開催でしたが、この経験を活かして、新年度の取り組みとして計画している「ミニ創生塾」(集合型・オンライン併用による連続型の社会人ものづくり講座)を開催し、会員以外の方々にも「まなぶ喜びと体験」を提供しながら、地域におけるものづくりに貢献できる取り組みを進めていきたいと考えています。



創生塾SNS勉強会